

空土ファーム生きもの調査 2019年4月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの耕作放棄地を再耕作することにより、生物多様性がどのように変化するか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法

①調査レベル：主任研究員クラスによる現地調査

②調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図-1）

なお、今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、確認された生きものはどの調査地点で確認されたかを記録した。

③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行う。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査する。

④調査日程：2019年4月20日 10:00～16:00



図-1 調査地全景および調査地点

2. 自動撮影装置の設置

C地点に自動撮影装置を設置し、夜間に活動する哺乳類などの記録を行った(図一2)。なお、今回の調査では哺乳類であるニホンジカとホンドキツネを記録することが出来た(図一3)。



図一2. 設置された自動撮影装置の様子



ニホンジカ



ホンドキツネ

図一3. 自動撮影装置で記録された生きもの

3. 空土ファームとその周辺で見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

コガネネコノメソウ (C 地点) : 山地の谷沿いに生える野草

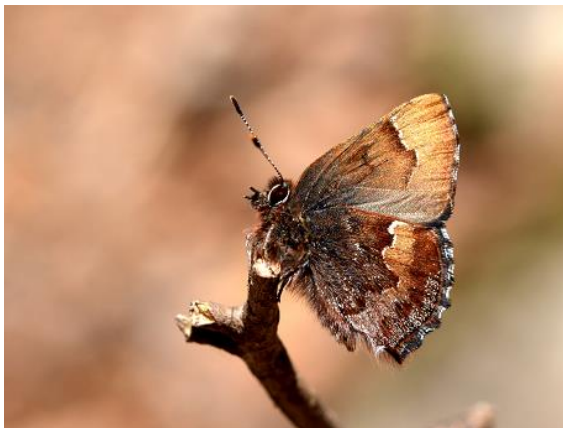
今回の調査では、C 地点の谷地で、山梨県のレッドデータブックで絶滅危惧 I B 類に指定されているコガネネコノメソウが花を咲かせていました。この植物は山の中の谷地(やち)や川沿いなど、湿った場所を好みます。空土ファームに隣接する山地でも、田んぼに水を引く水路があるので、ネコノメソウの仲間が生育できると考えられます。

ちなみにネコノメソウは、果実が熟すと果実が裂けて開き、中の種子が見えるようになりますが、この時の果実の形が「猫の目」に見えることからこの名がついたそうです。



コガネネコノメソウ

2) 各調査地で見られた生きものたち



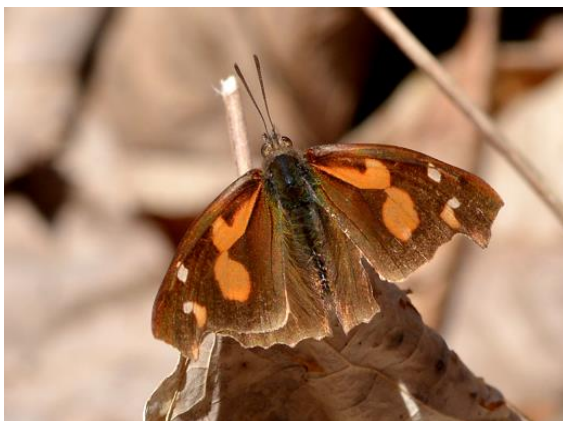
コツバメ (C 地点)

山地の樹林の林縁など、比較的明るい場所で見られます。春にのみ成虫が発生します。



トラフシジミ (B 地点)

明るい林縁などで見られます。撮影時はタネツケバナの花の蜜を吸っていました。



テングチョウ (C 地点)

落葉広葉樹が多く生える場所に生息するチョウの仲間、成虫のまま越冬します。



ピロウドツリアブ (A、B、D 地点)

田んぼや塩川沿いに生える植物の花の蜜を吸う姿が見られました。



ニッコウネコノメソウ (C 地点)

山地の林道沿いの、比較的明るい場所に数株生えていました。



ヤマエンゴサク (C 地点)

春先に花を付けた後は花も葉もすぐに枯れ、翌春まで生えてきません。

3) 空土★生きものコラム ～帰化植物がたくさん増える理由～

春を迎えた空土ファームとその周辺には、春の花々が咲きはじめていました。その中でも、オオイヌノフグリやヒメオドリコソウなど、外来種、もしくは帰化植物と言われる植物が群生している姿がよく目につきました。ではなぜこれらの植物は、たくさん増えることができるのでしょうか？

オオイヌノフグリの場合、昆虫によって花粉が運ばれ、結実しますが、万が一昆虫が来なかった場合に備え、自らの花粉で結実する「自家受粉」を行います。この方法でほぼ確実に種子を作れるので、数多く増えることができるのです(ただ、自家受粉は自らと同じ遺伝子を持つ子孫しか残せず、遺伝子の多様性が損なわれるため、病気にかかりやすくなるなどの弊害も出ます)。その他、他の植物の生育に適さない、比較的乾燥した土地でも生育できるなど、帰化植物が増えることができる要因は様々あります。

外来種は在来の植物の生息地を奪うなどのデメリットもありますが、ハチやチョウなどの昆虫たちの蜜源になるなどのメリットもあります。在来種や外来種を含め、空土ファームの周辺では様々な生きものたちが関わりあいながら生きているのです。



オオイヌノフグリ (A、B、D 地点)

3. 調査結果

表. 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ナズナ	○			
A	オオイヌノフグリ	○			
A	イヌナズナ	○			
A	カキドオシ	○			
A	セイヨウタンポポ	○			
A	ミツバツチグリ	○			
B	ナズナ	○			
B	イヌナズナ	○			
B	オオイヌノフグリ	○			
B	カキドオシ	○			
B	ミミナグサ	○			
B	セイヨウタンポポ	○			
B	タネツケバナ	○			
C	ヤマエンゴサク	○			
C	ニッコウネコノメソウ	○			
C	コガネネコノメソウ	○			絶滅危惧 I B類 (EN)
D	ナズナ	○			
D	オオイヌノフグリ	○			
D	イヌナズナ	○			
D	ヒメオドリコソウ	○			
D	フキ	○			
D	セイヨウタンポポ	○			
D	ホトケノザ	○			
D	カキドオシ	○			
D	ミドリハコベ	○			
D	スギナ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	アブラチャン	○			
D	アブラチャン	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ビロウドツリアブ				
B	スギタニルリシジミ				
B	トラフシジミ				
B	ナナホシテントウ				
B	モンキチョウ				
B	セイヨウミツバチ				
B	オツネトンボ				
B	ビロウドツリアブ				
B	ベニシジミ				
B	キアゲハ				
C	コツバメ				
C	テングチョウ				
C	オツネトンボ				
C	ミヤマセセリ				
C	スギタニルリシジミ				
D	ビロウドツリアブ				
D	モンシロチョウ				
D	セイヨウミツバチ				
D	ベニシジミ				
D	ナナホシテントウ				
D	キタテハ				

表. 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ノスリ	fl			
C	ガビチョウ	v			
C	エナガ	v			
C	カケス	c			
C	ヒヨドリ	v			
C	シジュウカラ	v			
C	センダイムシクイ	s			
D	ガビチョウ	v			
D	カワラヒワ	v			
D	コゲラ	v			
D	ヒヨドリ	v			
D	キジ	c			
D	ハクセキレイ	v			
D	ウグイス	s			
D	スズメ	v			
D	ツバメ	fl			

v:目視 c:地鳴き s:さえずり fl:飛翔 fd:採餌

表. 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ホンダキツネ		自動撮影装置		
C	ニホンジカ		自動撮影装置		